

アビスパ福岡株式会社について

令和4年6月

# 目 次

I 法人の概要	・ ・ ・ ・ 1
1 法人の概要	
2 組織	
II 事業報告	・ ・ ・ ・ 3
III 決 算	・ ・ ・ ・ 4
1 損益計算書	
2 株主資本等変動計算書	
3 貸借対照表	
IV 事業計画（方針）	・ ・ ・ ・ 7

## I 法人の概要

### 1 法人の概要

(1) 法人名 アビスパ福岡株式会社

(2) 主要な事業内容

サッカーの興行、サッカースクールの運営ならびにサッカー指導者の育成およびプロサッカーチームに関する各種オリジナルグッズの販売

(3) 設立 平成6年9月29日

(4) 資本金 360,094千円 (令和4年1月31日現在)

(5) 本市出資の目的

Jリーグの地域に根ざしたホームタウン制により、本市のスポーツ文化の振興、青少年の育成並びに地域経済の活性化を目的として出資

### 2 組織

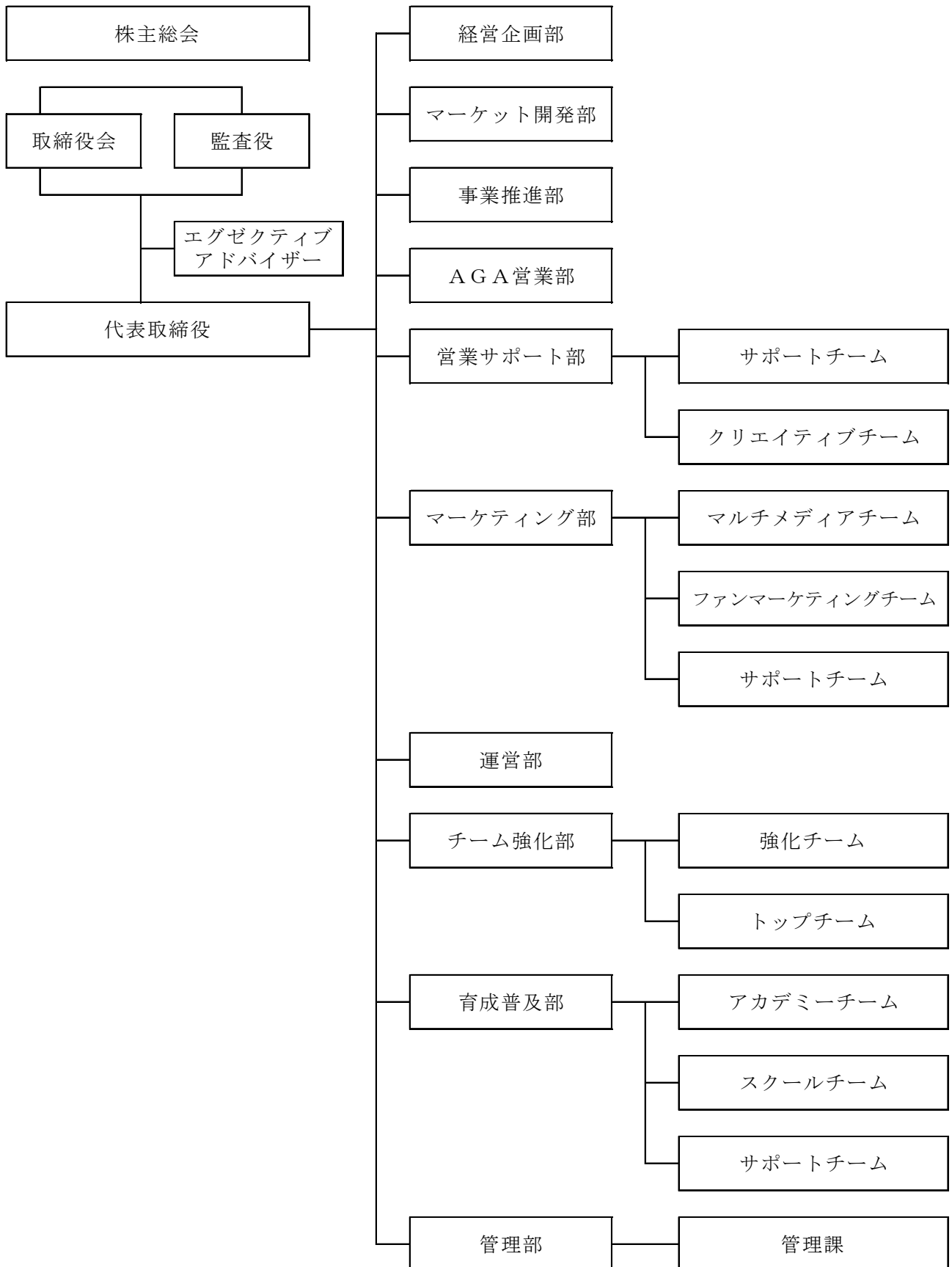
(1) 役員名簿

(令和4年4月26日現在)

役職	氏名	備考
代表取締役社長	川森敬史	APAMAN株式会社 常務取締役
取締役	吉尾春樹	株式会社システムソフト 代表取締役社長
取締役	安藤茂弘	コカ・コーラ ボトラーズジャパン株式会社 ベンディング事業本部 九州地区統括本部長
取締役	下川祥二	福岡市 市民局長
取締役	内村芳郎	九州電力株式会社 上席執行役員 ビジネスソリューション統括本部 地域共生本部長
取締役	大久保昭彦	株式会社西日本新聞社 取締役 財務・調達・メディア戦略担当、経営企画局長 兼お客さまセンター長
取締役	恒松孝二	株式会社九電工 総務部長
取締役	川原武浩	株式会社ふくや 代表取締役社長
取締役	村中悠介	合同会社 DMM.com C00 合同会社 EXNOA (DMM Games) C00
取締役	渡邊誠	株式会社プロスタッフ 代表取締役 渡邊誠公認会計士事務所 公認会計士
監査役	高木富士男	株式会社福岡銀行 総務部長
監査役	滝本英明	株式会社西日本シティ銀行 総務部長

(2) 組織図

(令和4年4月1日 現在)



## II 事業報告（令和3年2月1日から令和4年1月31日まで）

2021シーズン、世界中で猛威を振るった新型コロナウイルス感染症の影響で目まぐるしく日常が変化していく中であっても、地元福岡の経済界、自治体、後援会から、クラブ経営全般に及ぶ継続的な支援があり、最終的には今期のスポンサー社数は前期の836社から854社へ増加となった。

入場者数については、新型コロナウイルス感染症の影響により収容人数に制限のある中でのホームゲーム開催だったが、1試合当たりの平均入場者数が、前期の3,738人から今期は4,962人となり、1,224人増加した。しかしながら、新型コロナウイルス感染症拡大前の入場者数には戻らず、年間入場者数は10万9千人に留まった。

グッズ収入については、オーセンティックユニフォーム販売を始め、勝利記念グッズ等の販売を強化し、前期9千2百万円から今期1億7千2百万円となり、8千万円増加した。

チームについては、5年ぶりJ1でのシーズンとなり、長谷部監督体制のもとリーグ戦10位以内を目標としてシーズンに臨んだ。東京2020オリンピック・パラリンピックの開催に伴う変則日程のなか、シーズンを通して粘り強い戦いをみせ、クラブ史上最高順位となる8位でシーズンを終了し、J1残留を果たすことができた。

育成普及部門のアカデミーについては、新型コロナウイルス感染症により、活動が制限される中、選手の健全な育成と安全を念頭に置きながら、トレーニング等を実施し活動を継続した。年代別の日本代表及び候補に数名が選出されるシーズンだったが、U-18のプレミアリーグ昇格、各年代の大会優勝という目標を達成することはできなかった。スクールについては、新型コロナウイルス感染症により、活動が制限される中、前期のスクール生人数1,404人から今期は1,414人となり、微増となった。スクール校はチアスクールを含め24校となり、地域に密着した事業運営に継続して取り組んだ。

ホームタウン推進活動については、年間延べ14,184人を超える方に参加いただいております。コーチ派遣型の「アビススクール」のほか、ブラインドサッカー啓発活動や福岡都市圏と協働し健康教室等に取り組むとともに、フレンドリータウンとしては13の自治体と協定を締結する等、当クラブの経営理念である「子どもたちに夢と感動を」「地域に誇りと活力を」の実践を続けている。

こうした活動により、今期の売上高は、広告収入8億1千3百万円（対前期比8%増）、入場料収入3億1千2百万円（対前期比115%増）、その他の収入を加え、合計21億3千2百万円（対前期比39%増）となった。営業費用は、26億1千4百万円（対前期比43%増）となり、営業損失は4億8千2百万円、経常損失は5億2百万円、当期純損失は5億5百万円となった。

来期は広告収入、入場料収入をはじめ増収を実現する体制を構築し、クラブの経営安定化を図るとともに、J1定着を目標にチームづくりに取り組む。また、U-12からトップチームに至るまで「感動と勝ちにこだわる」AviSpa Styleをさらに進化させ、アグレッシブに活動していく。

### Ⅲ 決算

#### 1 損益計算書（令和3年2月1日から令和4年1月31日まで）

（単位 千円）

科 目	金	額
売 上 高		2,132,024
売 上 原 価		2,407,403
売上総損失（△）		△275,379
販売費及び一般管理費		207,371
営業損失（△）		△482,751
営業外収益		
受 取 利 息	1	
受 取 家 賃	784	
為 替 差 益	898	
前期損益修正益	1,908	
そ の 他	937	4,530
営業外費用		
支 払 利 息	2,777	
株 式 交 付 費	1,058	
支払手数料（営業外）	20,000	
固定資産除却損	736	24,572
経常損失（△）		△502,793
特別利益		
助 成 金 収 入	9,648	9,648
特別損失		
新型コロナ関連損失	11,152	11,152
税引前当期純損失（△）		△504,297
法人税、住民税及び事業税		814
当期純損失（△）		△505,111

※記載金額が千円未満非表示のため合計額が合わない場合がある。

## 2 株主資本等変動計算書（令和3年2月1日から令和4年1月31日まで）

（単位 千円）

	株 主 資 本					純資産合計
	資本金	資本剰余金		利益剰余金	株主資本合計	
		資本準備金	その他 資本剰余金	その他利益剰余金 繰越利益剰余金		
前期末残高	176,110	85,120	161,760	△640,652	△217,661	△217,661
当期変動額						
増資	183,984	183,984			367,968	367,968
当期純損失(△)				△505,111	△505,111	△505,111
自己株式の処分						
当期変動額合計	183,984	183,984		△505,111	△137,142	△137,142
当期末残高	360,094	269,104	161,760	△1,145,764	△354,804	△354,804

※記載金額が千円未満非表示のため合計額が合わない場合がある。

### 3 貸借対照表（令和4年1月31日現在）

（単位 千円）

科 目	金 額	科 目	金 額
<b>(資産の部)</b>		<b>(負債の部)</b>	
<b>流動資産</b>	<b>582,006</b>	<b>流動負債</b>	<b>938,975</b>
現金預金	409,117	一年内返済長期借入金	42,744
売掛金	132,845	短期借入金	10,458
商品	19,288	一年以内償還社債	30,000
未収入金	1,892	未払金	50,389
前払費用	17,256	未払法人税等	3,734
その他	1,605	未払い消費税等	12,951
		預り金	15,150
		前受収益	773,292
		その他	255
<b>固定資産</b>	<b>372,620</b>		
<b>有形固定資産</b>	<b>214,263</b>	<b>固定負債</b>	<b>370,456</b>
建物	195,635	長期借入金	327,256
建物附属設備	90,868	社債	40,000
構築物	35,877	長期預り保証金	3,200
工具器具備品	80,253		
土地	100,000	<b>負債合計</b>	<b>1,309,431</b>
減価償却累計額	△288,371		
<b>無形固定資産</b>	<b>1,440</b>	<b>(純資産の部)</b>	
ソフトウェア	1,440	<b>株主資本</b>	<b>△354,804</b>
<b>投資その他の資産</b>	<b>156,917</b>	<b>資本金</b>	<b>360,094</b>
出資金	10	<b>資本剰余金</b>	
長期前払費用	155,737	資本準備金	269,104
その他	1,169	その他資本剰余金	161,760
		<b>利益剰余金</b>	
		その他利益剰余金	
		繰越利益剰余金	△1,145,764
		<b>純資産合計</b>	<b>△354,804</b>
<b>資産合計</b>	<b>954,626</b>	<b>負債及び純資産合計</b>	<b>954,626</b>

※記載金額が千円未満非表示のため合計額が合わない場合がある。



#### IV 事業計画（方針）

アビスパ福岡は、「子どもたちに夢と感動を」「地域に誇りと活力を」を基本理念とし、ホームタウン活動などを通じて、地域に根ざした市民クラブを目指している。

今期は、クラブの経営の安定と、J 1 定着及び今後 J 1 で継続して戦っていく体制づくりに加え、アカデミーサポート体制の強化及びスクール育成指導の質的向上を図るなど、市民クラブとして地域への奉仕と満足してもらえるサービスの提供にさらに努めていく。

また、クラブが目指すべき経営モデルの定義と実現に向けてのアクションプランの実行のため、引き続き、専門の経営コンサルティング企業よりアドバイスを受けるなど、スタジアムへの来場者数の増加をはじめとした各種施策に取り組んでいく。

今後も、ホームタウン活動を継続し、多くの方々と関わりながら、アビスパ福岡が真の市民クラブとして、多くの市民に愛され、地域の誇りとなるよう、活動していく。